

発行：フォーラム・子どもたちの未来のために実行委員会

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

文責／大竹永介

【特別寄稿】

引退に思う ～出版人の父母と私の願い～ 《前編》

元岩崎書店代表取締役社長 岩崎弘明

私たちのフォーラムの呼びかけ人の一人であり、長く児童書出版の世界を引っ張ってこられた岩崎弘明氏（写真）が、昨年末岩崎書店の代表取締役社長の座を後任に譲り、引退をされました。そこで、今月、来月と2回にわたって氏に4半世紀を超える児童図書出版を振り返り、子どもの本づくりにこめた思いを語っていただきました。貴重な証言をお読みください。（編集部）



両親が設立した小出版社・岩崎書店に私が入ったのは、1994年のことである。

でも、残念ながら本が好きで、文学が好きで、といったふるった理由でもなく、また進んで入った訳でもない。むしろ学生時代から私は親が築いた道を歩むのは恥ずかしい事とさえ思っていた。

当時の岩崎書店は、父亡き後、経営に携わった母も退き、社を任された生え抜きの経営者の放漫経営と、過度に労働者の権利を主張した組合の存在とで事実上、倒産状態であった。

母はこの惨状の悲しみを俳句や和歌に詠い、日記に記していたが、母の没後にそれを見つけた私は、彼女の無念を晴らしたいと思い、まるで経験も知識もないこの児童図書出版の世界に飛び込んだのである。五十代半ば、移住先の米国に家族を残してのことであつた。

それまで大企業に勤めたり、脱サラをしたり、海外移民生活をしたりといった、拙いとはいえ一般人よりは多くの経験をし、また零細ながら企業経営の経験はあった。

しかし、出版社の経営は、単に「健全な経営をすれば良い」というだけではない。子ども時代から日々父・母の行動を見ながら私が感じていたのは、「出版は人間社会に良き貢献をすべきもの」という、確固たる出版理念、信念を持たねばならぬということだった。

父は東京深川の生まれで、幼いころから貧しい人々を沢山見ながら育ったという。早稲田を卒業し、役人となるが、昭和初期の恐慌で省内の下級職員が減俸されたことに対して反対運動を起こし、首になる。やがて自分の蔵書を基に古本屋を起しその後慶応書房の名で出版社を始めた。

一方、母は深川木場の大きな材木屋の娘であったが、正義感を持つ父に惹かれ、親の強い反対にもかかわらず女子大を中退して駆け落ち。父と結婚したという芯の強い女性である。

そんな父と母の関心は、日本の封建的社会制度、軍国主義、そして貧困の打開であったようだ。それ故、社会科学の専門書を中心に慶応大学のマルクス主義系教師の著作やソビエトの翻訳書を多く刊行し、更に、迷信や封建制度が蔓延る日本社会を変えようと自然科学書をも出版した。

中でも、ソ連で出版されたオパーリンの「生命の起源」を日本の大手出版社に先んじて昭和 16 年に刊行したことは注目に値する。

しかし、そんな出版活動は当時の軍事政府に当然マークされ、遂に父は反戦活動容疑、治安維持法違反で検挙、拘留される。検挙も拘留も覚悟のうえで、己が良いと信じることを人々に知らせようとした勇気のある、信念の出版人であったといえよう。



獄中で満足に食事も与えられず、顔色は黄疸で黄土色になり、冬の獄中で許された毛布一枚に包まる父を見た母親は説得を重ね、「今後出版活動はしない」ことを条件に父が約 10 ヶ月の獄中生活から釈放されたのは終戦を迎える一年余り前のことだった。

(写真左は父・徹太と母・治子 昭和 30 年頃)

終戦後、父は、この焼けた廃墟の日本を復興するには未来を担う子ども達への教育しかないとして、出版活動を再開した。これが現在の「岩崎書店」の始まりである。

母もまた、三児の育児から手が離れたということで児童図書の編集長として復帰。彼女は当時の女性としては珍しく科学が好きで、子どもの教育には科学的知識が必要だとして、1949 年に児童向け科学啓

蒙書として有名な「ミハエル・イリン選書」全 10 巻を刊行。更に 1951 年より「少年の観察と実験文庫」のシリーズ全 100 巻を刊行した。

父はこれらの本を、貧しくて本を買えない子ども達も読めるようにと店頭売りは止め、全て学校図書館向け販売のみとした。

「出版は人間社会に良き貢献をすべきもの」という私の思いは、こうした父母の活動によって培われたものである。両親のし遂げたことには到底かなうことは出来ないまでも、戦争の酷さ、平和の尊さ、学習障害を持つ者への正しい知識、自然科学物の出版等に力を入れ刊行してきたつもりであるし、この「フォーラム：子どもたちの未来のために」の結成に加わったのも、その思いの一つの現れといえる。

さて、上述したような父母の熱い思いで出版活動してきた岩崎書店が、私が参画した時は放漫経営で「事実上の倒産状態」となり、社には毎日の様に借金の返済と印税の支払いを求める電話が鳴りっぱなしであった。

私はまず、組合に給料の約 30%カットを申し入れた。左系の強い社員たちの中には、米国からの帰国者は全て帝国主義者として、「アメリカ帝国主義者がパラシュートで社のトップに降りてきた」と私を非難する者もいたが、結果としては組合もこの申し入れを受け入れ、再建に協力してくれた。

会社が潰れて失業するよりはよいと思ったのか、あるいは、その頃出版労連の中で「岩波、福音とはいかなくても、せめて岩崎の給料はもらいたい」との替え歌があったくらいの給与水準だったから、いくら強い組合といえども受け入れざるを得なかったのかもしれない。

問題は他にもあった。一つは印税の未払問題である。

印税は丹精こめて作った作品に対する対価。その未払いは、当然、著者、画家の方々にとり、大変無礼な、又、非常に大きな深刻な問題であった。それ故、私が社の責任者になると直ぐに、直接詰め寄られる方々も居られた。

私は「必ず、支払いをするから」と説得、納得して頂き、十数年かけて支払いを完了することができたが、しかし当時は未熟なゆえに、激しい直接談判を度々受けると、誠に失礼ながら、「分かっている。こちら精一杯やっているのだから、待ってくれ」とやや居直るような態度を取ってしまったこともあった。

もう一つは資材（紙）、印刷、製本等、外部の業者の方々との問題である。

「出版社はみんなの物」という父の社会主義的考えから、岩崎書店の株は、当時岩崎家と社員、出入りの業者とがそれぞれ三分の一ずつ保有していたが、業者の方

たちから、「今や、価値がゼロで、紙くずとなった株を持っていたとしても仕方が無い」という声があがりだしたのだ。

もともと私は父と違い、株式会社は50%以上の株を保有しなければ経営支配は出来ないとの考えであったので、「それでは、お持ちの株は発行額で買わせて頂く」として、業者の保有株を全部買い取らせて頂いた。こうして、私は岩崎書店の全株の三分の二を保有し、支配権を確たるものとして経営を始めたのである。

ところで経営を立て直すための最大の課題は、莫大な銀行借入を減らし、未払金を払うことである。それには、メーカーである出版社は、読者が好み、社会的に評価される書物を作り、販売量を増やして収入を上げる事しかない。

しかし、当時の我社の副社長兼編集長は「スリルや、ユーモアがある読み物は真の児童書でない。人間とは何かとの問題を提示し、子ども達がその問題を考えさせるような児童書でなくてはならない」と強く主張する人物であった。私はこの出版方針では良書をつくることはできても、大借金を返済する程のヒット作品は出ないのでは、と考えた。さて、どうすべきか。 【次号・後編につづく】

(いわさきひろあき：1940年生まれ。慶応大学卒。日産自動車輸出部入社、米国留学を経て米国日産勤務。36歳で脱サラ、カナダ移民ビザでバンクーバー移住、その後米国永住権を得てアメリカ・ロスに移住。54歳で岩崎書店再建のため帰国、日本児童図書出版協会副会長などを歴任。昨年末まで代表取締役会長兼社長を務める)

●オンライン学習会のお知らせ

下記の要領で3, 4月と連続のオンラインによる学習会を開催いたします。

皆様のご応募をお待ちしています。

★3月6日(土) 14時～ (90分程度の予定)

「コロナ禍での出版状況と子どもの本」文化通信社専務取締役・星野渉氏

★4月10日(土) 14時～ (90分程度の予定)

「コロナ禍の子どもの本～公共図書館から、子どもの本専門店から～」

日本子どもの本研究会会長・代田知子氏

ハックルベリーブックス店主・奥山恵氏

◎いずれも無料。先着50名の方をご招待いたします。開催はZOOMによるオンラインですので、対応できる方に限ります。参加ご希望の方はお名前とメールアドレス、〇月の会希望かを明記の上、f.kodomo.mirai@gmail.com までお申し込みください。

3月分の締め切りは5日17時。4月分は3月15日以降の受付で4月9日17時の締め切りです。(いずれも定員になり次第締め切ります) ご注意ください。

●3月のフォーラムニュースをお届けします●2013年に特定秘密保護法案への反対署名を児童書関係者に呼びかけようと思った時、私が真っ先にご相談したのが岩崎書店の岩崎社長でした。社のホームページに掲げられた氏の子どもの本と平和への思いを読んだことがあり、強く胸を打たれていたからです●その岩崎氏が昨年末ご年齢を理由に引退されました。氏の貴重な経験談から私たちが学ぶものは大きいと思います。今月、来月と続く特別寄稿。どうぞ後編もお楽しみにお待ちください●コロナ禍でしばらく活動が止まっていましたが、手探りながらも少しずつ学習会などを再開していきたいと思っています●まずは3, 4月連続のオンライン学習会。こちらの技術不足もあって、まだまだ限られた人数ですが、ご興味のある方のお申し込みをお待ちしています。まずは3月の会の締め切りは5日。よろしくお願いいたします(大竹)